

令和4年度 自主公開研究授業報告

学び合いのバージョンアップを目指して

音楽科・国語科・美術科

9月16日(金)本校にて、自主公開として音楽・国語・美術の研究授業を行いました。

【音楽】1年1組の授業

題材名 箏曲「六段の調」

本時の目標 箏曲「六段の調」を奏法に注目して鑑賞することを通して、奏法が生み出す特質や雰囲気を感じ取る態度を養う。

学び合い 「六段の調」の冒頭部分を取り上げ、奏法あり・なしの演奏を比較して、奏法が曲にもたらす効果をペアで話し合う。

授業者の振り返り

〔成果〕 発問を少なくし、ポイントをしばったことで、生徒が内容を理解しやすくなった。

〔課題〕 振り返りで学びたいこと、知りたいことを共有する。

生徒の振り返り

- 箏の音楽を聞いて、奏法を使うと美しく響きがよく、面白い音楽だなと思いました。
- もっといろんな曲を弾いたりしたいと思いました。
- 箏にはなにか惹きつけられるものがあり、いつまでも聞いていたいと思った。



教師による実演



箏の体験



「箏」のクイズ

指導主事からの指導助言

良かった点

- 教師による「箏」の実演や生徒の箏の体験は、実物に触れられて生徒の意欲づけになった。
- 教師が奏法を示すことで、生徒も教師と同じように弾いてみたいという思いにつながった。
- 「箏」に関するクイズも効果的に生徒の興味・関心を高めていた。
- 箏の音色を聴いて、「美しい」という言葉が生徒から出ていた。

改善点

- 話を聴く、体験するなどの授業規律を守らせて、メリハリをつける。
- 終末に時間の余裕があったので、振り返りに書かれた内容の「もっと学びたいこと」や「知りたいこと」などの共有ができれば良かった。
- 学習を通して、伝統や文化に関連付けた「なぜ、奏法が生まれたのか」といった発問があったら良かった。

【国語】 2年1組の授業

題材名 古典に学ぶ「徒然草」

本時の目標 失敗しない方法を短歌にして助言する活動を通して、伝えたいことを自分の言葉で表現することができる。

学び合い どうすればよかったのか法師への助言を考えて、短歌にする。

授業者の振り返り

〔成果〕 考えを引き出す手立てとして三角ロジックを用いることで、生徒たちは考えを整理することができ、教師は生徒たちの思考を可視化することができたので、つまづきに応じた指導ができた。

すべての生徒が参加する設定のためのICT活用が有効であった。

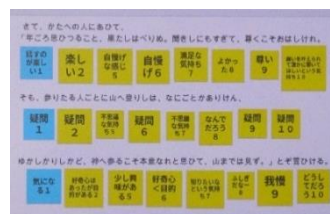
〔課題〕 生徒にとってやってみたいという必要感のある課題設定であったか。導入の問いの設定を工夫することで、すべての子どもが自ら考え行動する学びへとつながる。考えを広げたり、深めたりするためには、他者の意見と自分の考えを対比し、その上でさらに自分だったらどうかを再考することで思考が深まる。

生徒の振り返り

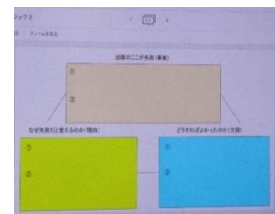
- 法師のどこがいけなかったのか、どうすればよかったのか、三角ロジックにすることで考えを整理することができた。
- 法師は「知りたい」という心に任せて行動すればよかった、という意見も出たが、法師は参拝するという本来の目的に反するからしなかったの、そこに法師の信仰心の強さを感じた。
- 法師は仲間に聞いたり、山に登っていく人に聞いたりすることをしなかったの、分からないことを素直に聞いたら良かった。



ペア交互読み



法師への助言



三角ロジック

指導主事からの指導助言

良かった点

- ICTを使うことによって、オンラインも含め、生徒全員が参加できた。
- アドバイス短歌を贈るといった言語活動はねらいとも合っており、生徒が楽しく取り組んでいた。
- 個人思考→グループによる学び合いの流れが思考を深めることに効果的に働いていた。
- ジャムボードに指示があり、活動がスムーズに行えた。

改善点

- なぜ短歌でアドバイスを使うのかが、生徒の中で必要性を感じられていなかった。
- 友達の意見を対比する場面がなかった。→友達の意見への共感のずれが分からなかった。
- 何を書けばいいのか書いてあるので生徒の意見が偏ったり、型にはまる可能性がある。

【美術】 3年1組の授業

題材名 北斎からゴッホへ

本時の目標 浮世絵の影響を受ける前と後のゴッホの作品を見比べる活動を通して、日本の美術が西洋の美術に与えた影響について理解することができる。

学び合い 教科書の図版を見て「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を鑑賞し、気付きを造形的な要素を意識して発表する。

授業者の振り返り

〔成果〕 作品を3点に厳選したことで比較するポイントをしぼることができた。

〔課題〕 ジャムボードに出された個人の意見を班活動を通して分類・分析してまとめる時間がもっとあれば、もっと作品理解が深まったと思う。

生徒の振り返り

- 葛飾北斎が描いた浮世絵の躍動感、色の使い方の工夫、配置の工夫などを活かしながら、今までの無彩色を多く使っていたゴッホとはまるで違う作品を作り上げた。補色など色の知識を存分に使い、美しい油絵を作り出した。水彩画で夜景を描くのとは違い、油絵を使うことでより幻想的に仕上げたり、空や街を青、白、黄色などを使って細かく描くことによって、月に照らされた街の美しさや空を表現した。
- ゴッホの初期の作品は暗い色をたくさん使っていてパツとしないようなものでしたが、北斎の影響を受けた後の作品では表現したいところがよくわかり、どこに力を入れているのかよくわかりました。少ない色で躍動感を表現できる北斎の表現力にも驚きましたが、それを吸収してできたゴッホの作品は、星や月、街の様子が少ない色でできているとは思えないほど美しく素敵な作品でした。星だから、と黄色だけではなく、星が光っているところを白や水色、黄緑色で表現していてすごかったです。



個人思考をジャムボードで共有



班で交流



作品の変容を色で整理

指導主事からの指導助言

良かった点

- ジャムボードに全員の名前が入っていて、生徒一人ひとりに役割を与えていた。
- 共同作業で意見をまとめることができていた。
- ジャムボードでリアルタイムに友達の見解を見ることができるので、参考にすることができた。
- 鑑賞の中で専門的な言葉を使って、表現できている（既習事項を活用して）今までの授業がきちんと理解できている。

改善点

- ゴッホの絵が変わるきっかけとなった絵について考えさせるための発問として、「この絵の間には、どんな絵があると思う？」という発問だったら良かった。
- 注目させたい生徒の意見を厳選して、全体で紹介し、肯定的に評価する場面を増やしていく。
- 自分の思いを語れる生徒を増やす。

◎ 全体会 (村上指導主事の講評より)

- 四中版『学び合い』について「誰一人見捨てない・子供は有能である」という考え方は三原市が目指す「すべての子供が自ら考え行動する学び」に通じる。
- 今後に期待することとして、問いの設定では、「～という問いを解決するために～したい」という学びの必然性を取り入れる。
- 問いの探求では、教科の「見方・考え方」を引き出す、教師のファシリテートの視点が大事になる。
- 問いの解決として、授業の終末で次時につながる「問い」が教員の言葉から出るようになると単元・題材を通して学びが繋がっていく。
- 「学び合い」をファシリテートするためにファシリテーターとしての4つのスキルが必要。
 - 1 場のデザインスキル 例:目的や目標を全員が理解し、話し合いの進め方を設定する
 - 2 対人関係のスキル 例:安心感を生み出す傾聴, 意見を引き出す質問
 - 3 構造化のスキル 例:意見の明確化, 図解による議論の可視化
 - 4 合意形成のスキル 例:適切な意見の対立解消方法の選択
- 「学び合い」を通して、「学び方」を育成する。

